

《東日本大震災後 1 年 9 カ月、日本国内への外国人ボランティア数が V 字回復！》

2012 年 1-12 月の『国際ボランティア・国際ワークキャンプ』

外国人ボランティア参加者数は前年比 65%増加。

最多の国籍は韓国人、次いで台湾人。ロシア人・アメリカ人が急増。

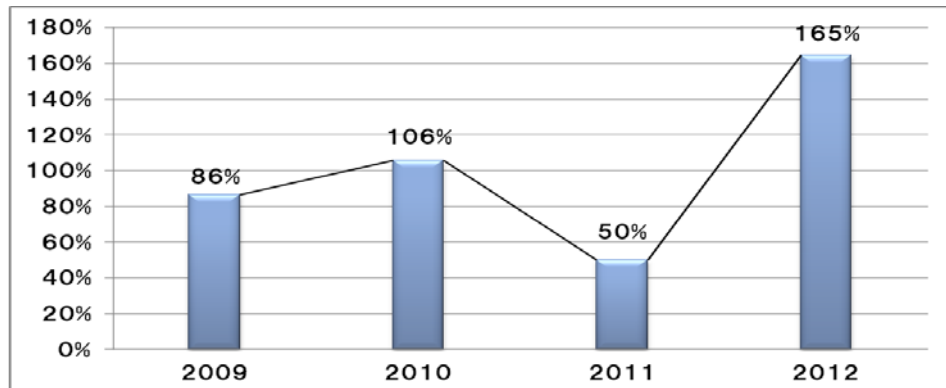
「ローカルでグローバルな経験を！2013 春ワークキャンプ情報も発表」

特定非営利活動法人 NICE（日本国際ワークキャンプセンター）は、1990 年より 23 年間にわたり、合宿型のボランティア活動、「ワークキャンプ」を国内約 50 カ所・海外約 100 ヶ国で開催する。国内では、外国人のボランティアが日本の田舎で地元民や、日本の若者と共に 2 週間ほど共同生活をしながらボランティアを行う。

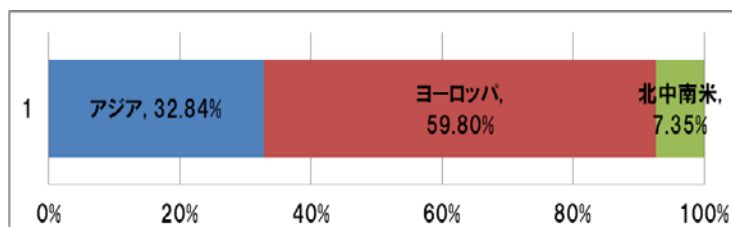
●東日本大震災後、外国人ボランティアが戻ってきた。参加者数は震災のあった前年比 165%。

2012 年 1-12 月までの期間に開催された国際ワークキャンプを対象としている。日本国内で開催された、国際ワークキャンプへの外国人ボランティア参加者数は、前年比 165%。国籍は 1 位が韓国人で 11.3%、2 位が台湾人で 10.8%。震災で減少し、2012 年急増した国は、ロシア人とアメリカ人。ロシア人は前年比 340%増加。アメリカ人は前年比 333%。地域別参加者数は、アジア 32.8%、ヨーロッパ 59.8%、北中米 7.4%。

■データ 1:2012 年 1-12 月 日本国内の国際ワークキャンプ外国人ボランティア参加者数前年比 (%)



■データ 2:地域別・外国人ボランティア参加者 (%)



《外国人と行う、国際ワークキャンプのポイント》

- ・外国人が来ること過疎の町を活性化させる
- ・田舎でボランティアすることで、古き良き日本を知る
- ・日本人と外国人が共同生活をし、共に汗を流すことで異文化理解に繋がり、平和運動への一歩となる

